



正月3日にTVでやった、ブルース・スプリングスティーンのドキュメントを見た。「昔のスプリングスティーンは良かったけど、今はどーも・・・」という人も少なくないと思うが、私もわりとそのクチで、昔の曲のライブシーン目当てにチャンネルを合わせた。が、いきなりピーター・バラカンがホストをしていてびっくりした。この人は大好きだ。途中のインタビューを見て、またびっくりした。とても良いことを言った。何て言ったかは忘れたけど、要するに、「生活することや、自分自身の日々のいとなみを忘れることは、とても危険なことなんだ。」という内容の事を言った。なんでびっくりしたかという、彼自身、そーゆうことを忘れちゃったんだなあってがっかりしてた人間のひとりだからだ。ゲーッとか驚きながら、嬉しいやら哀しいやらまたワケがわからなくなってしまった。「WAR!」戦争なんか最低!!と歌うスプリングスティーンに目を覆ってしまった私たちとしては、そんなら今度は、「オレは金持ちのVIPだから戦争はじまっても行かなくてすんじまうんだぜ!」と歌ってもらえると「ブルース兄いやってくれるぜ!」と目をうるませてしまえるのだが・・・。

話はもどるが、さっきのインタビューの内容はホントにそのとおりだと思う。ソングライターとして私も自己批判がある。とくに社会に対する姿勢を歌うときがアブナイ。『ダイヤモンド・シンドローム』を書いたあと、「自分が何様のつもりか?」という疑問が残った。『ひとりぼっちの反乱軍』もまだ危うい気がした。『東京ロックシティー』でようやく自分の日常との関係が保てた気がする。このころから説得力のある作品が書けるようになった。初期の作品が悪いとは言っていない。若さの特権であるうぬぼれや過信は、それはそれで美しいと思う。でも、もしこの先TOMCATがビッグネームになり、大観衆に目くらんで教祖サマになりそうになったら、即座に私を無視してほしい。ロッカーとして、「そんなキモチワルイ人間にはなりっこない」の方へ100円賭ける。

人がどうしてうたを歌い始めたのかはわからないけど、私は歌は100%個人的なものであるべきだと思っている。”さあ、みんなで夢を信じましょう!”みたいなことは、何かの宗教の教祖サマが言うならワカる。イギリスのゴロツキ小僧が、高い失業率と階級制度の中で政治的なうたをわめき散らすのもワカる。あんまり言うと墓穴を掘るのでやめる。[夢][愛][希望][自由]を歌った名曲はたくさんあるし、元気の出る言葉だった。本来の意味は今も好きだしこっさり信じてる。でも、TVやラジオでたたき売られるリアリティーの無い夢よ希望よの歌声を聞かされつづけて、『これは気持ちのわるい言葉です』という定義づけが私の中にできてしまった。ここ2~3年の出来事だ。自分の作品の中でも、いつの間にかこーゆう言葉に対して妙に神経質になってしまった。こんな自分を私はなさないヤツだと思えます。でも考えてみると言葉が悪いわけじゃない。要は、そのうたを作った人、さらには歌う人の、とっても日常的なレベルで等身大に語られる言葉であれば、ビシバシとリアリティーを持って伝わってくるはずだ。今は、孤独で過激で否定的な私だが、いつか正々堂々と[愛]や[希望]や[夢]や[自由]をうたえるような人間になって、気持ちわるいことばにされてしまったことへの敵討ちをしたいものだ。ホンキで淋しいが、「そんなステキな人間にはなれっこない」の方へ、150円賭ける。

いろいろ書き散らかしたが、本来、こーゆう内容のことは言わなくてもいいことだ。せーぜーごく親しい友人との会話の中で語られればいい。なんで書いたかという、いちど両面コピーというのをやってみたかったのと、気がユルんだから。あくまでも私の独断と偏見であるからして、決して安易に納得するな。読者諸君の盛大な反論を期待しつつ、今年もハッターリかましていこーナッ。

松崎 淳美

